

3月議会
始まる

北幼保園設計委託費計上される 大規模幼保園について再検討を

平成18年2月に、「大垣市の『新しい幼稚園と保育園のあり方』について」という提言が出され、この7年間で5つの幼保園と2つの公立保育園の民営化が実施されました。

そして、平成23年度予算では、北幼保園の設計委託費が予算化されています。当初の計画では北幼稚園と北保育園の統合でしたが、途中からかさぎ保育園も一緒となって300人規模の大規模園になる構想です。果たしてこれでよいのでしょうか。今まで5カ園の幼保園ができましたが、中間総括をする必要があると考えます。

市議会議員 笹田トヨ子

赤坂・青墓・荒崎・綾里 日新で幼保園誕生

昔から大垣市の幼児教育・保育制度では、就学前1年間は“学校幼稚園”に入園する仕組みになっていました。そのため、保育園に入園している子も就学前1年間は校区の学校幼稚園に入園し、幼稚園の放課後は留守家庭教室に入っていました。しかしこの制度は5歳児保育だけ分断されるという点で問題もあり、また3年幼稚園を希望する人が多くなり、一方保育園利用者も就学までの一貫保育を求めるなど、そのあり方について、見直しをされる時期に来ていました。平成15年に幼保一元化検討委員会が設置され、幼稚園や保育園のあり方が検討され、その中から幼保園構想が出てきました。この間、赤坂・青墓・荒崎・綾里・日新の幼稚園と保育園が合体して幼保園が生まれましたが、その前提には児童福祉法に基づく保育所の最低基準を満たしていることなど確認されました。学校幼稚園として残ったところは2年または3年幼稚園とし、保育園も5歳児までの就学前一貫保育を行うことができるようになりました。

幼保園化で 給食が自園方式でおいしくなった。 200人を超える大規模園が生まれた

この7年間の変化をみると、①幼保園化で200人規模の大規模園ができた。②3年幼稚園を実施している園に子どもが集まるため、2年幼稚園の園児数が激減している。③共働き家庭が増えているためか、少子化の中でも保育園児の数はそれほど減ってはいないといった傾向がみられます。

幼保園化で何がよかったかといえば、給食が自園方式となり、大変おいしくなったことです。

問題は、200人を超える大規模園が生まれていることです。今までの保育園は大きくても200人まででした。幼保園化で赤坂幼保園は222人となり、青墓幼保園も200人の園児がすごしています。



幼児教育保育施設の 適正規模は“200人まで”

幼保一元化検討委員会の提言には「0～2歳児については、健康で安全な生活確保、情緒の安定化と特定の大人に対する信頼感の形成がとれるよう職員を適正に配し、月齢や発育の状況に沿って、家庭的で温かく細やかな保育を行う」となっているのですが、これを実践するには小規模園の方が望ましいわけですが、これを実践するには小規模園の方が望ましいわけですが、しかも、障害児保育の指定園ではなおさらです。今回、設計委託の予算化がされている北幼保園は0歳児から受け入れる園ですし、障害児保育を実施しているかさぎ保育園も含まれ、赤坂幼保園より規模は大きくなると予想されます。

以上の点から考えると、提言の中では、幼保園の規模を「概ね100～300人程度」としていますが、「200人まで」に改めるべきではないかと考えます。今回は園舎の建て替えが前提になっています。後世の子どもたちの保育・教育を考えるなら、今ちょっと立ち止まって、見直しを行うべきではないでしょうか。

3月議会の日程

3月7日(月)	10:00	本会議・提案説明
3月14日(月)	10:00	本会議・一般質問
3月16日(水)	9:00	子育て支援日本一対策委員会
	13:00	市民病院に関する委員会
3月17日(木)	9:00	建設環境委員会
3月18日(金)	9:00	経済産業委員会
3月22日(火)	9:00	文教厚生委員会
3月23日(水)	9:00	企画総務委員会
3月25日(金)	10:00	本会議